

公益財団法人鳥取県文化振興財団
平成28年度 業績評価（文化芸術事業）
まとめ
（平成28年4月～平成29年3月）

1 はじめに

第3期指定管理期間3年目である平成28年度は、当初鑑賞型事業9本と育成・創造型事業7本を予定していたが、10月に起きた鳥取県中部地震の影響によりやむを得ず鑑賞型事業2本（「東京バレエ団『くるみ割り人形』「HANAGATA 狂言会 in 倉吉）」の中止、育成型事業1本（「プロデュース創作公演 弦楽アンサンブルコンサート」）の会場変更となった。このような状況下ではあったが、文化芸術事業推進コンセプトとして、「ARTS FOR EVERYONE ～アートでつながる、心うるおう～」を掲げ、多くの県民に本物の文化芸術に触れる機会を提供した。

2 概要

（1）鑑賞型事業の特徴

ア コアな鑑賞者の維持と新規鑑賞者の開拓について

様々なジャンルの公演を実施し、コアな鑑賞者の維持・増大と新規鑑賞者の開拓を例年どおり各事業の戦略に基づき行った結果、入場者率は全体平均で74%（前年度69%）、入場目標達成率は、89%（前年度90%）顧客満足率は、87%（前年度85%）と前年度に引き続き高実績であった。入場目標達成率では、特に「ドラゴンクエストコンサート鳥取公演」が109%、「Hand Shadows ANIMARE アニマーレ」が112%と高かった。過去3年間における同ジャンルの鑑賞数（≒新規鑑賞者割合）は49%（H27年度41%、H26年度35%）であり近年動向として確実に新規鑑賞者開拓は進んでいる。「立川志輔独演会」や「ディズニー・オン・クラシック～まほうの夜の音楽会2016」などは、コアな鑑賞者といえる固定客も多い事から、同ジャンルを定期的で開催する事も今後視野に入れたニーズへの対応も必要である。

イ 収支比率について

全体平均として75%（前年度86%）であり、「立川志輔独演会」1事業のみ（前年度1事業）100%となった。さらに、他3事業が75%以上であった。低かったものは、「Hand Shadows ANIMARE アニマーレ」が49%（目標値36%）であったが、親子向け事業であることから高額なチケット料金設定が困難であり、このような事業については収支のみを重視しない事理解を引き続き求めたい。また、「歌劇 ブラックジャック」に関しては作品形態の特殊性から34%となり苦戦した結果となったが、アンケート回収率は39%と高く顧客満足度も86%であったことから課題を今後につなげる事が必要とされる。

ウ 他関連機関との連携について

県内の文化施設、マスコミ等と共催し、より強化した体制で広域に事業展開を行った。（一財）米子市文化財団 2事業、（株）山陰放送 1事業、（株）新日本海新聞社 1事業を共催実施したことで、ネットワークの構築と各連携先の強みを生かした広報による集客につなげた。特に財団の管理施設も持たない西部地域においては、中海圏域からの来場者も多い事から、今後においても持続し更なる組織間の連携強化を図りたい。

一方、平成26年度から実施している特別共催事業においては9事業実施し、財団のみでは開催できない公演を多くの県民に提供できたことから、引き続き各マスコミとの良好な関係を維持し発展へとつなげたい。

(2) 育成・創造型事業について

第3期指定管理期間の育成・創造型事業のメインの事業でもある「プロデュース創作公演 弦楽アンサンブルコンサート」については、震災の影響により会場を倉吉未来中心から急遽とりぎん文化会館へ変更しての開催となった。世界的ヴァイオリニストを音楽監督として招聘したことはもちろんであるが、県出身のオーディション受賞者を主とする出演者による質の高い公演を制作・実施したことは人材育成、出演者間のネットワークの構築、さらには鳥取県におけるクラシック音楽界の活性化など大きな成果が見られると共に、関係者からも本事業に対して今後の期待も大きく寄せられていることから、何らかの形で次期指定管理期間においても実施を検討すべきであろう。

実施が14年目となる「とっとりの芸術宅配便」においては大きく事業の見直しを行った。見直しを進めるにあたり、財団職員とベテラン講師4名によるプロジェクトチームを設立し課題の解決、ニーズや時代に適合した実施内容、指導者のレベルアップなどについて細かく解析・検討し更なる事業の進展へとつなげた。

その他、若年層の育成を目的とした「高校生のためのコミュニケーション事業」、「鳥取プラスアカデミー事業」では、昨年度に引き続き、多くの参加者に対し体験機会の提供を行った。「鳥取県青少年郷土芸能の祭典」では、昨年度同様事前に郷土芸能関係者との意見交換を行うなど、地元関係者とのネットワークの強化を目指し、長期に捉えた郷土芸能の継承に努めた。また、初の取り組みとして日南町で実施し、地元関係者や自治体との連携により今までの公演以上の様々な成果を得る事ができた。

「鳥取県クラシックアーティストオーディション エントリー事業」については、NHK交響楽団監修の下、専門講師によるクリニックを実施し次年度のオーディションへの意識啓発を行った。

(3) 量的成果実績

※別紙参照

3 まとめ

アーツアドバイザー会議委員による外部評価において様々な視点から、ご意見、アドバイスを頂いており課題の克服へとつなげたい。鑑賞型事業においては一定の水準は必要とするものの、高い集客率や収益率に頼らず、「良質な本物の舞台芸術」を多くの県民に提供する事を基本に、今後も様々なジャンルの事業を実施する事と同時に、地方では鑑賞機会の少ない事業も地道に実施していき鑑賞者の拡大につなげることが求められている。全てのジャンルに共通するが、文化芸術を身近に感じ生活の中に浸透させるには、鑑賞機会の提供が必要とされ、潜在的な鑑賞者や新規鑑賞者の発掘、家族で鑑賞する習慣への意識付けを進めなければ、少子高齢化が進む鑑賞者の減少が防げない為、引き続き戦略的な実施体制による事業展開を進めたい。

育成・創造型事業においては指定管理期間の5年間という短期計画の中で各事業に的確な目的を持ち実施しており、その成果は出始めた段階である。「鳥取県青少年郷土芸能の祭典」では青少年が晴れの舞台を目標・経験することで自信や誇りにつながり、また友達や大人の指導者との絆が深まり、連携意識も生まれやがては郷土を愛する心を育むことにつながっていく。また、「プロデュース創作公演 弦楽アンサンブルコンサート」においては優秀な県出身の若手アーティストの披露的な要素も兼ねた事業となった。人材育成する一方で必要なのはその受け皿をどう作るかであろう。若年層の県外流失は続いているが、帰郷して活動できるような環境整備づくりが公的機関の役割りでもあることから、今後も短期的な成果を求めず明確な目的、高い目標を持ち様々な視点からの仕掛け作りを行い、公益財団法人として掲げた目的を達成・発展させる事が求められている。